

～すぎなみコミュニティカレッジ～

「英語楽 ボランティア養成講座」

研修のご報告

2004年1月14日～2004年3月3日 / 全8講座

企画運営：NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワーク

共催：杉並区教育委員会

協力：ECCジュニア教育研究所

セント・メリーズ・インターナショナル・スクール

報告者：NPO法人 生涯学習 知の市庭

講座の目的

子どもたちが外国語や異文化に数多く触れ、体得する学習を支えるために、国際経験・語学力のある区民と地域の外国人を学習支援の人材として育成する。

講座の方向性

- ・実演習、受講者同士のディスカッションを行うとともに、学校での実習を取り入れた体験型講座を目指す。
- ・英語活動の技術指導だけでなく、自らの海外体験を物語り、子どもたちの学ぶ意欲を喚起するプレゼンテーション能力も磨く。

概要

第1回：2004年1月14日（水）午後2時～午後4時

How to 英語活動 学年別アクティビティの指導～「数」をいかに楽しく教えるか～

第2回：2004年1月21日（水）午後2時～午後4時

How to 英語活動 学年別アクティビティの指導～「曜日」をいかに楽しく教えるか～

第3回：2004年1月28日（水）午後2時～午後4時

How to 英語活動 歌・チャンツの指導～楽しくリズムにのってレッスンを工夫～

第4回：2004年2月4日（水）午後2時～午後4時

How to 英語活動 レッスンプランの作り方～チームティーチングと万能ゲーム～

第5回：2004年2月18日（水）午後2時～午後4時

現役インターナショナル・スクール講師による国際理解の基礎講座

第6回：2004年2月19日（木）午後1時～午後5時

地域外国人を交えたワークショップ

第7回：2004年2月下旬（時間は実習先により異なる）

実習（区内11の小学校）

第8回：2004年3月3日（水）午後2時～午後4時

講座の振り返り～学校支援活動のため注意事項

会場は実習を別にして、全回を通してセッション杉並にて開催

< 講師 >

第1回～第4回：ECCジュニア教育研究所トレーナー 永森裕美子さん

第5回～第6回：セント・メリーズ・インターナショナル・スクール オンライン教諭

杉並ユネスコ協会 板倉徳枝さん

第8回：杉並ユネスコ協会 板倉徳枝さん

杉並区学校教育コーディネーター 生重幸恵さん

．主な内容

1．第1回～第3回の主な内容（学年別アクティビティの指導）

第一回「数」をいかに楽しく教えるか

Classroom English（歌とチャンツ）

まとめ：「歌を使った英語活動」「レッスンプランの作り方」

「数」を扱ったアクティビティ紹介

（マジックカーペット・オオカミさん今何時？・アップダウンクイズ・オークション 等）

「数」を扱った歌の紹介

（"Seven Steps", " One, Two, Three, Four, Five"）

教室で使う指示語（Classroom English）の紹介

（基本の表現、数を問う表現）

まとめ：「小学校英語活動における邦人講師の必要性」

主な観点

1）数を習うことによって、何が表現・理解できるようになるか

年齢

時間

電話番号

物の値段

物の数、量、長さ、大きさ、距離など

2）数を導入する際の留意点

低学年には「数字」だけでなく、絵を使用するなどして量をイメージさせる。

高学年には13と30の違いや20と30の類似点が簡単に比較できるよう、表のレイアウトを工夫する。

3）数える数の範囲

1・2年：1～10（時間を教える必要のある時は1～12）

・3・4年：1～20（習熟度に応じて1～30）

5・6年：1～50（習熟度に応じて1～100）

第二回「曜日」をいかに楽しく教えるか

「曜日」を扱ったアクティビティ紹介

（数と曜日の記憶ゲーム・カレンダーすごろく・テレビガイド 等）

「曜日」を扱った歌の紹介

（カレンダーソング、替え歌 等）

Classroom English

（誉め言葉・励ましの言葉、曜日を問う表現）

まとめ：「学年別アクティビティ指導のポイント」

主な観点

- 1) 曜日を習うことによって、何が表現・理解できるようになるか
 - その日の曜日
 - 時間割
 - 習い事
 - テレビ番組
 - 予定
 - 予約
- 2) 曜日を導入する際の留意点
 - 月曜日～日曜日がセットで覚えられるように何回も繰り返し練習し、児童が順番を覚えてから各曜日の認識に移る。
 - 「月」～「日」の漢字をうまく使って英語のアウトプットにつなげる。

第三回「歌」を使った英語活動

- 「歌」へつなげるためのアクティビティ紹介
- (ダチョウのダンス・走ってタッチ！)
- ターゲットに沿った歌の紹介
- ("Old McDonald Had a Farm", "BINGO", "If You are Happy")
- チャンツ(リズムあそび)の紹介
- (あいさつ、名前、年齢、出身地、色、感情、好き嫌い、等を扱ったチャンツ)

主な観点

- 1) 歌選びのポイント～目的に合った歌を選ぶ
 - 歌を使って単語を覚えさせる。
 - 英語の歌を楽しむ。
 - 行事に合った歌を紹介する。
- 2) 歌の導入・練習
 - まずはアカペラでゆっくり聞かせる。ジェスチャーや振り付けのあるものは児童にも同じように動作することを促す。
 - 必要であれば歌の概念を日本語で説明する(すべて訳すわけではない)。
 - アカペラで歌いながら、児童にも単語部分は歌うように促す。
- 3) 歌を歌う
 - 音楽に合わせて歌を歌う。ジェスチャー、振り付けも付けながら歌う。
 - その時間だけで終わるのではなく、復習の時間や調整の時間などを利用して児童が歌になじむまで何度か練習する。

2. 第4回の主な内容

前回までのおさらい

- ・本日は前半で「チームティーチング」を学びます。そして、後半では「万能ゲーム」といって、どんなトピックの単語にも使えるゲームをご紹介します。最初に、前回のフィードバックを5分少々させていただきます。
- ・前回一番多かったご質問は、チームティーチング、サポートの仕方です。3名や4名で学校にいらっしゃるので、児童のサポートの仕方と役割分担を教えてほしいという意見をいただいております。本日はネイティブティーチャーと日本の先生とのチームティーチングを見ていただきます。そこから、それならこんなものもできる、あんなものもできるなということで応用していただければよいと思います。また、実際の授業風景を見たいというリクエストがかなり多く寄せられました。今日は実際にネイティブティーチャーが教えている小学校の授業風景を紹介した7分程度のビデオを用意しています。
- ・ところで、前回「動物の鳴き声」を学習しましたが、子どもたちに、動物の英語での鳴き声をどのように納得させればよいのが、というご質問も多かったですね。低学年でしたら、「動物も英語で鳴く」「英語の国の動物は英語で鳴くのですよ」といった説明の仕方を通じると思います。たとえば、4、5年生くらいになったら「犬は、本当にワンワンと鳴いていると思う？」と質問してから「日本語を使う人は"ワンワン"と聞こえるけれど、英語を使う人は、どうやら"バウワウ (bow-wow)"と聞こえているみたいね」といったふうに、聞こえ方の違いを説明するとよいと思います。また、子どもの喜びそうな早口言葉のリクエストもありましたので、レジメの一番最初のページにつけておきました。

例：Peter Piper peck of pickled peppers.

Did Peter Piper pick a peck of pickled peppers?

If Peter Piper picked a peck of pickled peppers?

Where's the peck of pickled peppers Peter Piper Picked?

- ・講座を通して、皆さんからもご助言をいただくことが多くありました。私が「曜日」を教えるのに適切な素材が少ないと言いましたところ、受講者の方からマザーグースの"ソロモン・グランディ"というものをご紹介いただきました。

Solomon Grundy,

Born on a Monday,

Christened on Tuesday,

Married on Wednesday,

Took ill on Thursday,

Worse on Friday,

Died on Saturday,

Buried on Sunday.

This is the end

Of Solomon Grundy.

* * * * *

ソロモン・グランディ

月曜日 生まれて

火曜日 洗礼

水曜日 結婚

木曜日 発病

金曜日 悪化し

土曜日 とうとう死んじゃった

日曜日には埋められて

これでおしまい

ソロモン・グランディ

- ・レジメで、Solomon Grundy.の横に書いてあるのが、"Children of the Week"ですが、これを聞かれたことがある方はいらっしゃいますか？ Sabbath というのは安息日(日曜日)という意味ですね。
- ・ところで、ご自分が生まれた曜日をご存知の方はいらっしゃいますか？ ご存知の方のほうが少ないのですよ。私自身も必死になって調べまして、土曜日ということが分かりました。この詩は、月曜日に生まれた子どもの性格、火曜日に生まれた子どもの性格...と、曜日ごとに性格を列記しています。皆さんも、調べる手段があれば、ご自身でも生まれた曜日を調べてみられるといいでしょう。また子どもたちにも、お家で聞いてきてごらんと呼びかけてごらんになって、この詩に当てはめてみると楽しいと思います。

Children of the Week

The child that is born

On the Sabbath day

Is blithe and bonny,

And good and gay;

Monday's child is fair of face;

Tuesday's child is full of grace;

Wednesday's child is merry and glad;

Thursday's child is sour and sad;

Friday's child is loving and giving;

And Saturday's child

Must work for its living

* * * * *

日曜日(安息日)生まれの子どもは、ほがらかで健やか

月曜生まれの子どもは、けがれなく、美しい顔をしている

火曜日生まれの子どもは、優しくて愛嬌たっぷり
水曜日生まれの子どもは、陽気で愉快的な性格
木曜日生まれの子どもは、不機嫌で、悲しそう
金曜日生まれの子どもは、愛にあふれ、人に親切
土曜日生まれの子どもは、生活のために働かなくてはならない

ゲームに入る前に

先生だけが英語で話すのではなく、子どもたちにも英語で反応してもらいましょう、子どもたちからも話しかけてもらいましょう。もし、先生が二人いれば、こんなデモを見せることができます。

子どもとの英語でのやりとり

<先生の問いかけ>	<子どもの応答>
Are you ready?	Yes. Not yet.
Can you help me?	Sure.
Who wants to try?	I do. / Me!
Who's turn is it?	It's my turn
Do you understand?	Yes. / No.
Let's play a game!	That's a good idea!
That's all for today.	Thank you.

子どもとの英語でのやりとり

<子どもの問いかけ>	<先生の応答>
Excuse me?	Yes?
Can I go to the bathroom?	Yes, you can.
I'm sorry.	That's OK.
Please come again.	I would love to.
See you next time.	I'm looking forward to it.

たとえば、子どもが「先生、オシッコ!」と言ってきたら"Can I go to the bathroom?"と言わせるといったように実際の授業でも使ってみるようにしましょう。

Body Parts50 (ボディパーツ 50)

全身のパーツを英語で何というのかを表示してみました。内臓までいってしまうと大変なことになりますので、体の表面だけを約 50 語彙ほど、まとめてみました。ご存知のものも、そうでないものもあるでしょうが、これから、ネイティブのボディパーツの認識と自分の認識が合っているかどうかを、一緒に確認してみましょう。私が英語で、どこか1つのパーツを言いますので、自分の体で、そこを触ってみてください。そしてネイティブのメラニーと同じところに触っているかどうか、確かめてみましょう。

全員起立 先生が英語で単語を言う 生徒(受講生)がその部分に手を当てる

1 (髪: Hair) ~ 50 (体: Body) の順

Hair, Head, Forehead, Eyebrow, Eye, Eyelash, Nose, Nostril, Cheek, Mouth, Lip, Mustache, Chin, Beard, Tongue, Tooth, Gum, Ear, Neck, Throat, Adam's Apple, Shoulder, Arm, Hand, Palm, Finger, Knuckle, Finger nail, Elbow, Chest, Breast, Stomach, Tummy, Belly, Belly button, Back, Waist, Bottom, Hip, Leg, Thigh, Knee, Calf, Ankle, Foot, Toe, Toe nail, Heel, Sole, Skin, Face, Body

Body Parts Relay (風船運びゲーム)

概要

5人ずつ2列(2チーム)に並んで立たせる。チームごとにボディパーツのカード(head, knee, bottom, shoulders, hand)を引き、引いたカードの体の部分を使いチームの2人が風船をはさんでリレーするゲーム。

実習

最初の2人が手(hand)と手で風船を支え、そこに3人目が入ってバトンタッチして4人目に回す。同じようにして5人まで回す。次に頭と頭(head)で風船を支え、同じように5人まで回す。さらに、背中と背中(shoulders)で風船を支え、同じように5人まで回す。お尻とお尻(bottom)で同じ動作をくり返した。

「Simon says (サイモンさんの命令)」ゲーム

ボードに王様の顔を描く。その顔を指してこの人はサイモンさんだと紹介する。

- ・ This is Simon. (これはキングサイモンさんです。)
- ・ Repeat. Simon. (リピート。サイモン)
- ・ Simon says "Hello." (サイモンが言いました。「こんにちは」)
- ・ Simon says "Stand up." (サイモンが言いました。「立って」)
- ・ Simon says "Touch your nose." (サイモンが言いました。「鼻にタッチして」)

何度か"Simon says"をつけて指示を出す。次に"Simon says"をつけずに言う。

- ・ Touch your toes. (つま先にタッチして)

ポイント: Simon Says がつかないときに動作をしたら負けというルールを "Touch your head?" "Nooo..." "Simon says, touch your head" など、日本語を使わずに説明する。

ダンス "THE HOKEY-POKEY"

THE HOKEY-POKEY

- ・ 前奏 ~ 全員で円になり、肩を前後に揺らしながらリズムを取る。
- ・ You put your right hand in, You put your right hand out, ~ in で右手を円の中央に向かって前に出す。
- ・ out で右手を体の後方に引く。
- ・ You put right hand in . And shake it all about, 再び右手を円の中央に向かって前に出し、shake it ~ で右手を振る。
- ・ You do the hokey-pokey and you turn yourself around, 両人さし指を顔の横で上下に振りながら、その場で1回転する。

- ・ That's what it's all about! That's what it's で太ももを 2 回叩く。all about!で手を叩く。最後に右、左とスナップをして指を鳴らす。

以降、left hand, tummy, bottom, whole body の順で同様に動作を繰り返す。

「Chinese Whispers (伝言)」ゲーム

概要

列になり、後ろから前（あるいは前から後ろ）へ聞こえてきた単語を伝達していくゲーム。

進め方

講師は各チームの最前列にいる人を呼び、各チームに違う単語を伝える。その人がチームに戻り、ひそひそ声で伝達していく。最後まで伝達されたら、最後の人は伝言された単語のカードを取って講師のところに持っていく。

実習

カードに 1 つ曜日を示す単語（日本語）が書いてある。それを講師が 2 チーム（5 人）に示し、順に英語で伝えるよう指示を出す。最後に伝言を受け取った人が列の前に走ってきて、該当のカードをタッチしその単語を大きな声で発音する。早く正確に伝えた方が勝ち。

"Musical Chairs" (イス取りゲーム)

概要

指定された単語のカードを持っている人がイスを奪い合うゲーム。

進め方

- (1) 35 名のクラスの場合、一種類の単語につき、7 ~ 8 名が同じ単語カードを持っているようにカードを配る
- (2) 教室の中央にイスを 6 ~ 7 脚用意しておく（同じカードを持っている人数より少なめに）
- (3) 児童はイスを囲んで円になる。
- (4) 講師が音楽をかける。
- (5) 児童は音楽に合わせてリズムカルにイスの周囲を回る。
- (6) 講師が途中で音楽を止める。講師はカードを手にして単語の 1 つを言う 言われたカードを持っている児童は急いでイスに座る。
- (7) 座れずに残った児童がオニになり、次の単語を言う役をする。
- (8) 少なくともすべての単語が言われるまで行う。

実習

イスを 4 脚用意して、20 名で展開。

ポイント

1 つのグループが少ない場合には、中央に置くイスの数を減らす。
また、2 人が座れば残った場合には、2 人ともオニになり、一緒に単語を言う。

Pictionary (ピクシヨナリー : 「絵当て」ゲーム)

概要

ボードにキャラクターの絵を描き、チームごとに当てるゲーム。

進め方

- (1)講師は"What's this"と言いながら、その日のターゲット単語のイラストを描き、児童に当てさせ、ゲームのモデルを示す
- (2)児童を2チームに分け、ボードに向かって2例に並ばせる
- (3)各チームの先頭の人を呼び、それぞれ異なるカードを見せる。"Go!"の合図で各チームに絵を描かせる
- (4)先に正しく言い当てたチームにポイントを与える。

実習

2チームに分かれて、各チーム1人ずつ前に出てボードに絵を描く。今回は、体の部位を描いて、それが何かをチームの仲間が当てる（英語で答える）という趣向。たとえば、「ショルダー（肩）」や「バック（背中）」など。

What am I drawing?
 (It's) a shoulder.
 (It's) a back.

ゲーム : "Who stole the cookie from the cookie jar ? "

(誰がクッキーを取ったか ?)

実習 :

- (1)7 ~ 8人でチームを作り、"オニ"を1人決める。
- (2)全員にカードを配るが、それを人に見せてはいけない。
- (3)1枚だけクッキーの絵が描いてある。
- (4)チーム全員で円になって座り、"Who stole the cookie from the cookie jar ?"と言い、オニがチームの1人の名前を呼び、"Did you?"と尋ねる。
- (5)名前を呼ばれた本人がクッキーを食べた（クッキーの絵のカードを持っていた）なら、"Yes , me ! と答えてオニを交代する。違う場合には"Not me ! "と答え、オニは当たるまで次々に指名していく。

まとめ

(1) チームティーチングの種類

NET - HRT

JET - HRT

NET - JET - HRT

- ・NET (Native English Teacher : ネイティブ講師)
- ・HRT (Home Room Teacher : 担任)
- ・JET (Japanese English Teacher : 日本人英語教師)

チームティーチングといっても、必ずしも2人とは限りませんので、皆さんが3 ~ 4人で組んで行われるのもチームティーチングと言ってよいと思います。種類としては、まずNET - HRTがあります。ネイティブの先生と担任の先生の組み合わせ、このケースが一番多いと思います。JET - HRTは、日本人の先生と担任の先生の組み合わせです。もしくは、NET - JET - HRTという、三人のチームティーチングの場合もあります。

(2) チームパートナーの役割

モデルを示す

クラスの代表となる

理解の促進、フォロー

クラスコントロール(クラスの維持)

チームパートナー、つまり英語の授業をメインに進める人のパートナーとなる人は、担任の先生の場合もあるでしょうし、他の方の場合もあります。その役割は、今日の私を例にしますと、アクティビティや会話のモデルを示すことです。クラスの代表となること。先生の問いかけ(Who wants to try?)にだれもが反応を示さない場合には、率先して"Me!"とか"I do."とか答えます。後は、理解の促進とフォロー。クラスコントロールというのはしつけとか秩序の維持ですね。教室の後ろの方で授業と関係のないことをしている子どもなどがいたらレッスンに参加するよう促します。

(3) ベーシックルール

英語は英語で体験させ、理解させる。

~ アクティビティのルール、会話のやり取りを教える時には、まずモデルの示し方を考える

児童の類推力を伸ばす

~ 「こんなことを言っているのかな?」と考えをめぐらす機会を与える。

たとえば、"How are You?"と尋ねて、"I'm fine."と、すぐに返事がなくても、待ってあげてください。一見ムダに思えても、「先生は私に何を聞いているのかな」といった考える時間を与えてあげることが、後々必要となってきます。

(4) 効果的な母語の使用

児童の類推を肯定し、「安心」を与える母語

- ・ 児童「好きかどうか聞いているの?」
- ・ 邦人講師「すごい!よくわかったわね」

児童の「こんなことを言っているのかな?」に対して「そうよ」というふうに安心を与えるための母語なら使っていただいて結構です。児童が「好きかどうかを聞いているの?」と尋ねたら、「そうよ、好きかどうか聞いているのよ」と答えるのではなく、「そうよ、よく分かったわね」と答えてください。

クラスコントロールのために使われる母語

- ・ 「それをしたら先生に失礼ですよ」
- ・ 「英語に関係のないものをしまいなさい」

(5) 効果的でない母語の使用

逐次通訳をしてしまうこと。

- ・「だれと話をしているのか」が分からなくなってしまう。
- ・英語を聞いて理解しようという態度が育たない。

ネイティブの先生が英語で話をしているのに日本の先生が通訳をしてしまうと、だれと話をしているのかが、子どもには分からなくなってしまうからです。そして、英語を聞いて理解しようという態度が育たなくなるということです。でも、最初から 100%を目指す必要はありません。子どもの理解を促進するために、たまには通訳をしても構いません。

(6) 英語ボランティアの役割と意義

- ・私たちは、コミュニケーションに必要な態度を示すモデルだということをしっかり認識しておいてください。英語を教えるだけの人ではありません。"態度を示すモデル"であるところがポイントです。この場合の「態度」というのは、知っている単語だけで話そうとする態度のことを指します。間違ったらどうしよう...なんて考えないことです。
- ・また、子どもたちにとっても、先生の話していることを理解しようとする態度が必要です。「え～、何を言っているのかわからないよ～」といった態度をとったら、きちんと注意するようにしてください。そして、笑顔で人の話を聞く態度が大切です。それがコミュニケーションには大切なことを指導するように、そして、先生自らが、その見本を示すようにしてください。
- ・「コミュニケーションをするときの小さな努力」についてもお話しておきます。初対面の人と会った時には、会話の糸口をつかもうとか、何か興味のある話題を共有しようとか、小さな努力が必要になります。そういう態度こそがコミュニケーションの第一歩です。「言わなくとも通じる」という日本的な発想が、そのコミュニケーションの第一歩を阻んでいるように感じます。
- ・「英語講師は、対人援助者であるべき。」ということですが、皆さんには子どもたちが、だれかとコミュニケーションをする手段を援助していく人であってほしいと思います。そして、自分の授業に誇りを持って子どもたちと接していただきたいと願っております。
- ・子どもたちの名前をどんどん呼ぶようにして、早く名前を覚えるようにしましょう。人の名前を早く覚えて、会話の中に名前をたくさん盛り込むことがコミュニケーションの有効な手段です。これは日本語の文章には、あまり見られません。ですから、先生がその手本を示すようにして、子どもたちとの垣根を狭めるような、そして異文化との垣根を狭めるようなコミュニケーションの方法を、子どもたちにも教えてあげてください。
- ・皆さんが、これからなさろうとしていることはとても大きな意義があります。子どもたちの中に小さなタネをいっぱい、いっぱい蒔いてください。そうすれば、やがて、子どもたちが大きくなった時に、自分の力で何かをつかみとることができるようになります。子どもの時期は、そのための種蒔きをする段階ですから、すごく意義のあることだと思っています。

3. 第5・6回の主な内容

はじめに

(1) 板倉さんより、講座内容の説明。

本日のコースは講演者の二人の指導案にもとづいて“ワークショップ”スタイルでプログラムされております。参加者は60名の日本人であり(講座参加者とスタッフ)、年少の子どもたちに英語を教えている皆さん方です。それに7名の外国からの方々によってサポートされました。彼らは3名のオーストラリア人、それにドイツ、アメリカ、ケニヤともう一か国からの方々です。

Today's course was programmed in the style of “work-shop” under the guidance of the above-mentioned two lecturers, with the participation of about 60 Japanese (being involved in teaching English to low-grade children) and also assisted by 7 foreigners (3 Australians, 1 German, 1 American, 1 Kenyan and others)

(2) 主な進行状況の説明

7名のアシスタントをされる外国の方々からの自己紹介がありました。

参加者は6つのグループに分かれ、各一人の外国人アシスタントが付きました。

1 The self-introduction was made by all the 7 foreign assistants.

2 The participants formed themselves in 6 groups with one assistant-foreigner.

オバラインさんの学校紹介

オバラインさんは日本に滞在している外国の子供たちのためのカトリック系の学校の先生です。

- ・そこでは一日おきに宗教の時間があります。
- ・クラスは二つに分かれており、カトリックのクラスとそれ以外の宗教を持つ生徒のための倫理のクラスです。
- ・倫理」のクラスの場合は、三名の先生が担当します。先生方は一年で三回クラスを変わります。そのため生徒の一人ひとりには年間を通して三人の先生から教えを受ける機会に恵まれます。先生はそれぞれの方法で教えます。ある先生はテストを行ったり、クイズを出したりします。また、その方法は異なっています、私の場合は全くどのようなテストもいたしません。テストの結果は何を意味するのでしょうか。テストにより、どのように価値を測るのでしょうか。それは無意味であり、価値は測れません。そこで、私はクラス授業に参加することに重点を置いています。私は生徒に表面的ではなく、物事を深く考えるようにさせています。“良いこと、悪いこと理論”のみで判断しないように。もし私が理論にこだわり過ぎると、生徒たちは早々に関心を失って飽きてしまいます。

それで、私は“道徳問題”を話題にしたのです。“強引な行動”とか“結果 - 自身が行ったことに対する責任”など多くの問題があります。私は“善と悪”のような問題は選択しません。なぜかと言えば、生徒たちはもう既に、盗みは悪いことであり、騙すことは良くないと知っています。その代わりに、私は生徒たちに分別のある心を持つように、そして、どのように相手を理解できるようになるのかを教えています。生徒たちは多くの異なった国から来ており、全く異なった個人個人だからです。他人を理解すること、と同時に彼ら自身を理解することです。高いレベルの人

格を形成するために、生徒たちは学問的のみならず、人として成長しなくてはなりません。学問的な分野だけではなく同時に“心”の成長を極めなくてはなりません。

.Mrs.Oberlein appears and starts to talk:

The main points are as follows:

- 1 . Mrs.O is the teacher of a catholic school for foreign boys staying in Japan.
- 2 . There are religion classes every other day.
- 3 . The Classes are divided into two types: “catholic class” for catholic students and “Ethics class” for students with the religions other than Christian.
- 4 . In the case of Ethics classes, there are three teachers who teach Ethics. They rotate the classes three times in a year. Therefore, it means that each student experiences three different teachers in one year. Each teacher has his/her own way of teaching. Some gives tests and quizzes. And other teacher does it in a different method. In my case, I don't give any test. Rather,I want the students to focus during class time. So I put my emphasis on “Participation in the class”. I let the students think on the matters deeply, not on the surface. Not judge only on “Good and Bad ” If I stick too much to an academic field,the students quickly lose their interest in Ethics class. So ,instead,I pick up “Moral issues”. There are lots of issues like” bullving “or “consequences(the responsibilities for what you have done)”. I don't teach them what is“Good or Bad”, because they already know that stealing is bad, cheating is bad, etc. Instead ,I let them have a mature mind and teach how to understand other people. Because there are students coming from different countries and with different background, it is important to understand others and themselves. In order to attain a high level of personality, they should grow up not only in an academic field, but also as a whole person to Develop in academic field and in heart as well.

グループ・ワーク

オバラインさんは講座受講者に「私が学校でしているように、参加者を同じ様にクラス編成してみましよう」と提案しました。この方法に関して、オバラインさんは添付するシートを参照しました。(シートNO.1)

ここでの議題は“何が問題ですか”です。(私にとって、貴方にとって、その他の人たちにとって、何が優先するのでしょうか？ 何が重要なのでしょうか？ それは色々と異なるでしょうし、違いがあります。このシートには多くの状況が存在します。皆さん、色々の角度から考えてみてください。われわれは人間として、常に“幸せ”を考えています。如何して戦争の無い社会で、友好的に生きられるのでしょうか。しかし、現実的には、戦争や争いは起こっています。

お互いを理解することが必要です。相手の立場を理解することが大切です。さあ始めましょう。

【参考：シート 1】

Key QUESTION What matters?

The question can be answered in many different ways.

FOR YOUR FOLDERS

1. You are a thirteen year old living in a country suffering from war and famine. Every day is a struggle to survive. How might you answer the question 'What matters?'
2. You live a comfortable house with a happy family. You are thirteen and in the second year of a large comprehensive school. What matters?
3. You live with your mum in a large block of flats in a city. You haven't got much money but have enough to eat and you've got a roof over your head. What matters?
4. You are famous pop star. You've got all the possessions you want. What matters?
5. You are living in a hut high up in the mountains. You are surrounded by beautiful scenery, lovely animals and you grow your own food. What matters?

5 . After explaining the above, Mrs O tells to the attending Japanese “Let 's recreate now in this class the same way as I do in the boys ' school”

In this re-creation method, Mrs.O refers to the sheet attached herewith (**sheet No1**).

The theme is “What matters.”

(What is priority for me, and for you and for other people ,What is important?? It varies, and is different. In this sheet, there are lots of situations. I hope you to think from various angles. As a human being, we always think on “happiness!” How to live friendly without war. But in reality, there are wars and conflicts. We must understand each other. Understanding the other person’s side. So let 's begin!

Please refer to the attached sheet!

受講者は与えられたこの議題についてしばらく議論をし、10分後に、各グループが、議論した結果を報告しました。主な回答は次のようなものである。

- ・ 状況(一番目) : 安全、食料、学校への出席、防御、平和、医療不足、お金
- ・ 状況(二番目) : 友達、衣服、異性の友達、独立、両親からの独立、音楽、その他

////////// Attendants have discussions on the given theme”What matters” for some time.//////////

After 10 minutes,the attendants report the result of their discussions. The main answers are as follows;

Situation (No1.): safety,food,attending school,shelter,peace,lack of medication,money,

s i tuat i on(No.2) : friends,clothing,boy/girlfriend,independence from parents,music,and others.

オバラインさんはパプア・ニュー・ギニアから来ている少年のケースを例に挙げました。パプア・ニューギニアの家族は大家族です。同国の大使館の予算は十分なものではありません。他の国から来ている家族とは違って、家族はたくさん贅沢はできません。しかし、少年は“ナイキ”のような有名ブランドのシューズが欲しかった。なぜなら、多くの友達が持っているから。少年はそのシューズのために何をしたのでしょうか？少年は彼の母親の財布からしばしば小額ながらお金をくすねていました。そしてシューズを買いました。私はその少年に尋ねました。“貴方のしたことは良い事ですか”。それで、彼はやっと自分がしたことが悪いことだと理解しました。彼は直接に、そして正直に母親にシューズを買って欲しいと言うべきであり、またはそれを買うために資金を貸して欲しいと頼むべきであったということを知ることが出来たのです。

彼はここで“道徳”について学びました。私の学校では、とにかく多くの少年が金持ちになりたいと願っています。皆さんもご存知のように、彼らの両親はそれぞれの本国ではエリートに属する人たちです。それがために、日本に来ることが出来、六本木のような高級な地域で高価な住宅に住むことが出来るのです。彼らは現状の生活が例外的なものであることを理解していません。一旦本国に帰れば、彼らは普通の生活に戻らねばなりません。もちろん非常に僅かな人たちは六本木のようなマンハッタンに住むことが出来るでしょう。しかし、彼らは混乱していて東京のど真ん中に住んでいてそれが例外であるとは思っていないのです。実際に、彼らが混乱してもしょうがないことなのです。なぜなら、彼らはそのような環境で育ってきたからです。彼らの両親に影響されて、次のような二つの要点に執着するようになっていきます(良い大学へ行く、金持ちになる)。

私は彼らに警告をしています。“学校で勉強するのはその為なの？”そして、質問するのです。“貴方たちの最終的な目的はお金持ちになることなの？”金持ちになる為に勉強する。決してそうではありません！あなた自身のために勉強するのです。

成功は後からやって来ます。もし、一生懸命勉強しないで、良い大学へ行かないと、ファーストフードのマクドナルドで働かねばならないぞ、と聞くのは私にとっては一番きらいなことです。

話題を変えますが、私は一人のイギリス人を知っています。彼が高校を卒業するときに先生に将来どうありたいか尋ねられました。彼はものすごくお金をもうけたいと答えました。」そうしたら、その先生が言いました。「貴方は非常に知的であり、聡明であり、出来る人であるので大学へは行くべきではない。大学での四年間は無駄であり、すぐ実業界に入り証券業のディーラーになったほうが良い。そうすることで、ノウハウを学び、技術を磨く。大学での四年間を無駄にしない」と。現在、彼はもうすでにその道のプロとなり、オーストラリアやその他の国で働き、ロンドンへ転勤したりした後、現在は日本でしばらく生活しています。今は、Pacific-Asia のトップとして世界を管轄しており、彼がいくら稼いでいるかも知っています。彼は大学へは行っていません。一生懸命働くほうを選んだのです、大学へ行くのを選ばないで...

彼には子どもはいません。彼に影響される子どもはいません。だから私は子どもたちに言うのです。

“大学は貴方を保障しませんよ”。日本においては、この理論は通用しません。

重要なことはあなた自身を向上させ、一生懸命働くことです。それで結果はついて来ます。

これで私のお話ししたいことは終わりです。それではその他の事項である 3 , 4 , 5 へ参りましょう。ここで、グループで話し合われた結果を書き出してください。

Here, Mrs O examples the case of a boy coming from Papua new Guinea.

In Papua new Guinea, they have a big family. But the embassy of Papua new Guinea does not have luxurious budget. So unlike the other families coming from other countries, the family was not very rich. But the boy wanted to buy a famous-brand shoes like “Nike”, because many friends had the brand shoes. What did he do for the shoes? He often stole small money from his mother’s wallet. And he bought it. I questioned whether what he had done was good. Then, he finally understood that it was bad. And he came to know that he should have directly and honestly told his mother to buy shoes for him, or to borrow money from her to buy it. He learned” ethical value” in this case.

At my school, anyhow, there are lots of boys who want to be rich. As you know, their parents are in the “elite” group in their home-countries. They can come to Japan, and live in a gorgeous house in luxurious areas like Roppongi.

They don’t understand that the current life is conditional as an “expatriate” status. Once they go back to their home country, they must go back to normal standard of life, except very few people who could afford to live in Manhattan like Roppongi. But they are confused and do not realize that they are in a special condition. It can’t be helped that they are confused, because they have grown up under such a situation.

Affected by their parent’s life, they come to stick to the following two issues (going to good university and becoming rich.)

I caution them” It that why you are studying at school??”

And I ask them “Is Your final and ultimate goal simply to become rich?”

You study only to be rich? No ! You study for yourself. Success comes later!

I really hate to hear that if you don’t study hard and not go to a good university, you will be forced to work at MAC fast food shop.

Changing the subject, I have an English friend. Right before graduation from a senior high-school, he was questioned by his school teacher, What do you want to be in your future?

He said he wanted to make lots of money. So, the same teacher said, You are so intelligent and bright and such a capable person. So don’t go to university! You should not waste 4 years at Univ. You should go into business world and become a stock market dealer.

By doing so, learn the “know-how” ,and brush up the skills. Don’t waste four years for the university. And now he has already become very successful. He has worked in Australia and other countries. And also in London. He now lives in Japan. He is now the Head for Asia Pacific Region. I know how much he earns. He didn’t go to college. He chose to work hard and hard. He doesn’t have a child. So there is no child who is affected by him. So I tell the children that college doesn’t always guarantee you. In Japan, this theory doesn’t work.

The important thing is to improve yourself and work hard. And then the result will come later..

This is the end of what I want to say. Now let’s go to other items no.3 4 5.

Now, you write down the results of your discussions in your group.

ここで各々のグループは議論に入り、それをまとめて、結果を大きな用紙に書き出し、後ほどのプレゼンテーションに準備しました。そして、それぞれのグループは次のように議論した結果を他のグループに報告しました。

(各グループの内容は重要性が無いのでここでは省略する)

//////////All of the groups are now engaged in discussion, and summarizing, and wrote the results on a large paper for later presentation.//////////

Now each group told the other groups what they have discussed as follows;

(The contents of each group 's discussion are skipped, because not important.)

小休止の後、 After the break,

板倉さんによる講義

板倉さんが現場で実践している教育方法についての説明がありました。(主要点のみ記述)

1. 英語教育では英語を教えない。英語を使って世界について教える。この国はどこ処にあるとか、スワヒリ語とはどんなものとか、いわゆる、世界を身近に感じさせることが語学に興味を持つことにつながる。
2. 生徒の将来に役立つ情報を与えることをミッションとしている。
3. その教え方は、本日は、その初歩的なものを皆さんに実践しているところをお見せしたい。
4. この授業には、必ず、外国のゲストが必要である。
5. 自分がやっているのは、月一回土曜学校で、一時間程度。当初の生徒数は 130 人ぐらい。主は小学校 1 - 2 年生である。
6. 生徒は英語勉強のためにきたのではなく、ただなんとなく来てみたとの感じでした。(しかし、だんだん興味を持ち始めた)
7. 生徒には、いつも世界地図を携帯させた。(地図をベースに外国と日本について教える)
8. 授業のため、部屋に入っていく。“ 皆さん、おはようございます。今日のゲストはどこのお国から見えたでしょうか？ 当ててみてください。ゲストはおっしゃっています。“ 私はドイツからきました ”。ここで生徒たちに聞く。ドイツは地図のどこにあるか知っている人は手を上げて...と質問すると、ほとんどの子どもは知らないなので、“ ジャーマニー ” と言わせて繰り返させ、それをドイツと教え込む。子どもの様に質問をし、興味を引き出し、その言葉を繰り返させる。興味を引き出しながら、英語を発音させ、英語への近親感を広げていくことが大事。この方式で本日のゲストを一人ひとり、国の名前、自己紹介をさせた。(この中で、オーストラリアから来ていたゲストはカンガルーの尻尾について説明。その尻尾なくしては立てないこと。単なる尻尾ではなく、生存に絶対必要なものとかを説明すると生徒は大変興味を示し、ひいては授業にも興味を示し、結果、英語にも興味を示すことになる)
9. 実際の授業では、ゲストが言うことが生徒には分からないので、本日の参加者たちが、横について、ゲストの言ったことを通訳する。
10. ここで板倉さんは、世界地図を黒板に張り、本日の講義に参加した人に、事前に用意されていた色々の国の国旗を選ばせ、地図上のどこの国にあるのかを当てさせるゲームをした。要は、子供

の興味を世界に広げていく方法で展開していく。従って、英語を教えるから入らず、子供にああこんな国に行きたい、その人と話したいと思わせて行く。

オバラインさんによる講義

最初に、オバラインさんは出席者のグループ変えをしましょうと提案しました。その理由は、席を変えることで生徒は新鮮さを感じ、新たなスタートが切れるからです。次のようにグループ変えを行います。

1. 腰掛を円形に並べる。もし 20 名の生徒がいたら、19 個の腰掛を並べる（一つ不足する）。
2. それで、皆さん席に着き、腰掛にあり付けなかった人は円の中に立つ。円の中にたつ人は“イエス”または“ノー”で答えられる質問を出す。答えが Yes の人は席を替わらねばならない（となりの席への移動は反則である）。席に座れなかった人は、円の真ん中に立ち新たに問題を出す。この様にゲームは継続していく。
3. その質問はごく簡単なものであり、誰がハワイへ行ったかとか、今日の朝食を忘れた人、誰がブルーのシャツを着ているのか。誰が靴下を履いているか等である。
4. これを続けることにより、インストラクターは生徒をいくつかのグループに分けます。グループ分けをする時は思いつくままにするのではなく、機械的に行う必要がある。この場合生徒の希望は考慮しない。“あの子といたい”とか“彼とは一緒にいたくない”などは受け入れない。
5. オバラインさんは数学（代数）と道徳、フランス語を学校で教えている。彼女によれば、誰にとっても数学は必要な科目である。なぜなら、世界共通であり、高いレベルの英語力を必要としないからである。彼女の学校では生徒は世界のあらゆる地域から来ている。
そのようにして、彼女は状況や、どのように生徒が学校で学んでいるかを説明した。（彼女の話し内容は今回の問題点とは直接に関係が無いので省略した。）

From this part, the insutructor was backed again to Mrs.O.

First, she suggested the attendants to change the grouping. She said”The reason is that by changing the partners to discuss with, students can refresh themselves and can make a restart.” She explains the way for re-grouping as follows:

- 1.Lay the chairs in a circle. If there are 20 students, there should be 19 chairs(1 short)
- 2.Then, everyone is seated. But one person stands in the middle of the circle. And the standing person gives a question for Yes ,or No answers. The students who answer “Yes” must move to other chairs.(Moving to the adjacent chair is not allowed) The person who missed to take a chair, stands in the middle, and gives the next question. So and so, the game continues.
- 3.The questions must be simple, like: Who has been to Hawaii or Who has missed to take a breakfast this morning?? Who is wearing blue? Who is wearing socks?? Etc.
- 4.By doing so repeatedly, the instructor divides the students into several groups. In the forming of grouping ,it must be done mechanically ,not arbitrarily. The students’ wish to be with their friends should not be in this case.
- 5.Mrs.O teaches math.(algebra) ,in addition to Ethics and French at her school. She says math is an important subject for everyone. Because it is universal. High level of English ability is not

required. At her school, students come from all over the world. So and so ,she explains the situation and how the students are taught at school. (The contents of what she said, is skipped, because they are not directly related to today's issue.)

“ どれほど貴方はご自分の子供について知っていますか ”。クラスで私は生徒に話しかけました。“ どれほど生徒とその両親がそれぞれのことを知っているか ”。それで私は比較するためにシートを用意しました。そして、生徒にこれを家に持ち帰り、両親にそれぞれの質問に答えてもらうように頼みました。この目的は生徒と彼らの両親との相互理解を深める為のものです。お互いに理解しあうことで、より良い関係が構築され両親にとっても望ましいものになることでしょう。(シートNO. 2を参照)

【参考：シート 2】

HOW WELL DO YOU KNOW YOUR CHILD?

DIRECTIONS: Fill in the chart for yourself and for your child. Compare your chart with your child's chart. How well do you know each other?

< TOPIC >

Favorite TV Show

Favorite Subject in School

Favorite Sports to Play

Favorite Foods

Favorite Musical Group or Person... (以下略)

TOPIC ごとに、それぞれ「YOU」「CHILD」の記入欄あり

After explaining the above in section 5,the instructor proposes to the attendants an interesting issue “How well do you know your child??”

In our class, we talk with our students “How well they know each other between the student and their parents.” And I prepare a sheet for a comparison. I tell them to bring the sheet back home, and ask the parents to fill in the question sheet.

The purpose is to deepen their mutual understanding between the students and their parents. By understanding each other, they can build a better relationship and better communication..

(Please refer to the attached sheet No.2)

オバラインさんは次の課題に移りました

このセッションは何か想像ゲームのようです。貴方が自宅でパーティーを催すと仮定して、そのパーティーに12名の方を招待することにしています。さて、このような状況において、出席者の人たちはその招待者をリストから10名、それ以外から2名を選ぶことが求められています。そして、同時に選んだ理由を白い別紙に書くようにも求められました。ほとんどの生徒はその基準として“ 良い、そして悪い、または、好き、嫌い ”の観点から選びがちです。それは良いとはいえません。理由のある、面白い発想が歓迎されるのです。

オバラインさんは受講者に実際に生徒たちが作り、描いた色々な出来上がったものを示しました。(出席者の人々がその場で実物を見た時は、感嘆の声を出して賞賛しました。なぜかと言えば、彼ら

出席者の見たのは手書きで書かれた“ 選択の理由 ” であり、想像力を巧みに生かした出来栄の良い描写が描かれていたからです。(添付シートNO . 3 を参照)

【参考 : シート 3】

Whom Do You Invite for Dinner?

- You are having the most remarkable dinner party in history! By suspending time, you are able to invite 12 people who are living, or dead, to your party. But that is the problem: Which 12 people will you chose?
- It is unnecessary that the guests be “ important ”;you can choose someone who is interesting for other reasons.

Perhaps you might want to establish a theme for the evening; one group of guests might like to have fun; another group might like to discuss interesting philosophical question. Remember that the guests you invite may depend upon the theme. For example, you would not want to invite people who might hate each other to an evening of “ fun and relaxation.” Choose at least two people who are not on the list.

Here is a list of possible guests:

Giacomo Casanova Billy the Kid Napoleon... (以下略)

Mrs.O. goes to the next issue.

This session is something like an imagination game. Suppose you hold a party at your home. You are going to invite 12 people to the party.

Now, in this situation, the attendants are required to choose 10 people from the list and select 2 people outside of the list. And at the same time, the reason for the choice is required to mention on the white paper.

Most of the students are inclined to choose from the point” of good and bad, or like or don't like” That's not good! Good imagination with a reason is most welcome.

Mrs.O.shows the attendants the various works which were made and drawn by students themselves.(When the attendants saw the real works at the workshop, they admired with exclamation. Because the attendants could see the manually written reasons for the choice and well drawn good pictures of full imagination on their work.

(Please refer to the attached sheet No.3)

この話題の後、ミセス・オバラインさんは今日のセミナーの最終課題に入りました。

1 . ここでの状況は次のようなものです :

ここに死にいたろうとしている少年がいます。その少年と両親はすでに彼の死後において、その心臓を求めている人に寄贈することを心臓移植協会へ同意しています。いま、ここに6名の重病人がおり、生存の為にその少年の心臓をすぐにも移植したいと求めています。

ここで問題です。下記に記載されている誰に、その少年の心臓は寄贈されるべきでしょうか。

あなたの選択の理由は何でしょうか？ 一つの心臓に対してそれを求める 6 名の切迫した状況にいる患者さん、その患者さんの、それぞれの年齢、背景そして状況は次のようなものです：

A さん：鉄鋼会社に勤務していた。奥さんは職を無くして、47 歳で 6 人の子供たち（8 歳から 21 歳）がいる。

ミス・ロドリゲスさん：ワシントンのメトロポリタンオペラ・ハウスのプリマドンナで第一ソプラノ歌手。離婚しているが二人の子供がいる（2 歳と 3 歳）。

フランクリン・ジョーズさん：医師。ジョージ・ワシントン大学で生物病理の研究者として世界でも知られた高名な科学者。裕福な身分、独身

カルロス・ワノンさん（10 歳）：ヴェネゼーラ大使の子息で、彼の夢は医者になることである

イ・ブラトリーさん（65 歳）：アメリカ合衆国の副大統領、5 人の孫がいる。

エッチ・ジャクソンさん：最近主人を無くした未亡人、失業中、社会保障を受けている、三人の子供がいる（4 歳、8 歳、10 歳）。

After the above issue, Mrs. O goes into the final issue of today's seminar.

The situation is as follow;

“There is a boy who is dying. The boy and his parents have already given their consent to the heart transplant donation association for giving his heart to somebody who needs it after his death.

Now, there are six patients who are under critical condition. they all need another heart for his/her heart-transplant surgery for their survival.

Now, the question! To whom (below mentioned) the boy's heart should go. What is the reason for your choice?? There is only one heart for 6 critically ill patients.

The age and background and circumstances are as follows;

Mr. A :employed as a steel worker. He has an unemployed wife age 47. 6 children(age 8-21)

Miss. Rodorigwezs: 1st soprano. Pri-Madonna at Washington Metropolitan Opera.

Divorced. Has two children. (age 2 and 3)

Mr. Franklin Johns: A research scientist at J. Washington Univ. he is the leading authority of biological diseases in the world. Not married.

Mr. Calros wahnnon(age 10): is the son of Venezuelan ambassador. The boy wants to be a doctor when he grows up.

Mr. E. Bradley(age 65): Vice-president of the USA. Grand father of 5.

Mrs. H. Jackson: A recent widow. Unemployed, and receives a social welfare.

Three children(age 4 8 10)

この課題において、生徒は誰が一番に少年の心臓を受け取るべきか、そして二番目は、三番目、四番目、五番目は誰で、その順番の理由は何であることを述べる様に求められています。それはその人が有名でよく知られた芸術家だからでしょうか、または、高い地位にいる人だからでしょうか、それとも化学研究の世界に必要な人、貧しい人だから、それともアメリカ合衆国の副大統領だからでしょうか。このシナリオでは、生徒たちは各自の想像力を高め、考える力をつける事と論法が求められています。

In this issue, the students are required to tell who should be the first recipient 2nd、3rd、4th、5th and the reason for the order. Is it because that she/he is a famous and renowned artist, or he is a high-status man, or a needed man in the scientific world, or she is a poor person, or the Vice-president of USA etc.

In this scenario, the students are required to enhance their imagination、thinking and reasoning abilities.

4. 講座運営者からの挨拶

～生重幸恵さん（NPOスクール・アドバイス・ネットワーク）

- ・NPOスクール・アドバイス・ネットワークは、学校教育支援のためのNPOです。子どもたちの教育を学校任せにせず、地域の人たちが学校や子どもたちをサポートしてゆくことが大切です。そのためには、サポートをする人材を育成する必要があります。
- ・学校に入るにはくじけないこと、一方的に学校を批判しないことが大切です。
- ・勉強が楽しければ、子どもは食らいついてきます。だから、途中で授業を投げ出さないこと。流れを創りだしてゆくことの大切さを考えてほしい。そのためには、授業の中で子どもの呼吸を感じて、臨機応変、果敢に対応してゆく気持ちを持ってください。
- ・自分だけのカリキュラムにこだわらず、「教えたいこと」は何かをきちんと理解して、子どもの反応を見ながら臨機応変に進めてください。
- ・学校の先生は忙しいから、こちらで対応を考えてあげる必要があります。電話にも出ている時間がありません。だからメールを活用するとか、手紙を出すとか工夫が必要です。
- ・先生は子どもを引っ張ってゆく人です。言い方はよくないかもしれませんが、上手に利用することが大切です。まずは先生との良い関係づくりから始めましょう。
- ・授業でボランティアに入るなら、事前に十分に打ち合わせをすることも大切です。皆さんの授業の支援の仕方によって、子どもが英語を好きになるかどうか、大きな分岐点になりますから、入念な計画と打ち合わせは不可欠です。学校には“表”の仕事だけでなく“裏”の仕事もあることを忘れないでください。

参考資料：講座の受講者の感想・意見

英語楽ボランティア講座のフィードバックフォーム

全回を通しての質問：特にどのような点がよかったと思われませんか？ 複数回答

第一回（1月14日）39名

- | | |
|-------------------------------------|----|
| ・教室で利用するクラスルームイングリッシュのバリエーションを学んだこと | 17 |
| ・英語で数を教える際のいろいろなアクティビティを体験できたこと | 34 |
| ・小学校英語活動のねらいと母国使用の基本ルールが理解できたこと | 13 |

- ・英語で数を教える際の学年別アクティビティの目的が理解できたこと 19
- ・その他 3

<コメント>

- ・楽しく学ぶことが分かった。
- ・時間が短いので仕方がないと思いますがもう少し理論がほしい。
- ・講師の魅力が大きい、子どもたちが興味を持って生き生きと参加できるような魅力ある講師になれたらと刺激を受けた。
- ・児童がどのように感じるか、どういう目的があるのか分かった。
- ・明るく大きな声でテンポ良くクラスを導くことを見習いました。
- ・現在の英語教育事業の状況が少し分かった。
- ・コミュニケーションスキルの育成のところで「あいまいさへの耐性を育てる」ということが印象的でした。

第二回（1月21日）39名

- ・教室で利用するほめ言葉のバリエーションを学んだこと 15
- ・英語で曜日を教える際の蠟色ナアクティビティを体験できたこと 32
- ・学年別アクティビティの難易度のコントロールの仕方が理解できたこと 24
- ・英語で曜日を教える際の学年別アクティビティの目的が理解できたこと 18
- ・その他 3

<コメント>

- ・ゲームの目的、学年別の工夫をキチンと説明してくださり分かりやすかった。
- ・アクティビティを通じて簡単なセンテンスを学ぶことは子どもたちをクラスに集中させるとてもいい方法と感じた。
- ・じゃんけんで負けたとき“オー！アイ ハブ ロスト”など自然に口から出るように仕向けたらよい。
- ・ほめる言葉に関するバリエーションを多く学べてよかった。
- ・ゲーム他、発達段階にあわせての理論を聞いて、音楽のように体験的、活動的に教えていくことを目的にすればいいのだ、これが分かりました。
- ・曜日の学年別到達目標は分かりました。総合的な英語能力（文法他）の到達目標も知りたい。それとも小学生では文法の習得は目標にしないでいいのでしょうか？
- ・生徒にこんなことを言われたら？ など状況に対応できる方法も知りたい。
- ・学年と英語のレベルは一致しているのでしょうか、レベルに合わせたゲームになっているのか知りたい。習熟度に差があるクラスの場合、どのように授業内容を調整したらいいのでしょうか。
- ・小学生が習う英語の内容（数・曜日以外のこと）を数項目教えてほしい。

第三回（1月28日）35名

- ・教室で利用する歌の指導の際のクラスルームイングリッシュを学んだこと 12
- ・小学校で指導する歌の選び方と導入方法が理解できたこと 19
- ・小学校で指導するチャンツの応用のしかたが理解できたこと 21
- ・小学校での45分授業の展開の仕方が理解できたこと 37

<コメント>

- ・年間を通じてのプランをおしえてほしい。
- ・実際の授業のVTRを見せてほしい。
- ・チャンツや歌は実際にしてみると経験の必要性を強く感じました。体感できて良かった。
- ・授業展開の仕方を実際的に教えていただいたので具体的で良く分かりました。
- ・クラススタートの際、簡単なチャンツを取り入れるとウォーミングアップによいと分かった（多少の英単語を口に馴染ませる、口から発声させる）。
- ・45分の授業組み立て事例を説明していただいて参考になった。
- ・文字言語は避けるとおっしゃいましたがA・・・Zを口慣らしでやるとしたら文字があつたらいいと考えますが…。
- ・レッスンで使える曲は限られているという印象を受けた。自分で研究する余地があると課題を与えられたと思います。
- ・実習に当たって日本人講師3人で行うチームティーチングの組み立て方のヒントを頂きたい。

第四回（2月4日）34名

・ネイティブの先生のレッスン指導が実際に体験できた点	26
・全学年共通の万能ゲームが体験できた点	17
・チームティーチングの際の邦人講師の役割が理解できた点	21
・小学校英語活動の年間カリキュラムの例が紹介された点	5
・その他	2

<コメント>

- ・「小さい子どもに英語のレッスンはどうかなあ」と自分自身「？」とっていたが、こんなに楽しいのならいいなあと感じた。
- ・小学生の低・中・高学年に分けての指導の仕方を分かりやすく教えて、説明していただきありがとうございました。
- ・ネイティブ講師の話しぶりは表情豊で身振りが大きく笑顔などがゲームに参加する私たちを楽しくさせました。
- ・講座全体をフルイングリッシュに近いほどの進め方でも良かったのでは？
- ・ネイティブ講師の単語だけの指示は見えにくい部分があり「効果的な母語」の日本人講師の役割が必要なことが良く分かりました。
- ・外国人先生のような表情をするのが私たちにとってとても難しい、どのようにすればいいのか？
- ・小学生に教える英語がとても奥深くやりがいのある仕事と感じました、学年別のノウハウを沢山教えていただき早く実践してみたいと思いました。
- ・終始笑顔でフレンドリーに講座を指導していただき感謝です。楽しく参加して身体で英語をおぼえること、音楽（リトミック）で五感をフルに活用することが小学生の英語なのかと感じました。
- ・日本が特殊な位置で、欧米から正確に認識されていないことを痛切に欧米滞在で感じています。幼児期からの異文化コミュニケーション能力の開発は非常に大きな課題であると思います。日本へ帰ってからのカルチャーショックが私たち家族の場合大きかったので、とにかく恐れず、交じり合い、受け入れるこ

と...が英語初頭教育の一步のように思います。

- ・永森先生が最後に言われた「子どもたちのコミュニケーション能力を高める手助けをする」との言葉が印象的でした、先生自身が高い志を持って子どもたちに接していることが良く分かりました。
- ・勉強することがこんなに楽しかったのは初めてです。素人の私が英語を子どもたちに浸透させられるのか不安ですが、私が楽しいことは子どもたちにとっても楽しい筈だと信じて教室に向います。
- ・頭で分かっているにもかかわらず楽しく盛り上げていくには難しいことだと思いました。おとな同士でも楽しめたアクティビティは子どもたちも喜ぶと思いました、教える方が英語を楽しんで笑顔で接していくことが大切だと思いました。
- ・小さい子どもへの英語教育は初めてで、新しい発見が多かった。十分消化できたとは思っていませんが、これを手がかりにして積極的に取り組んでいきたいと思います。
- ・母国語言葉を通して意思を正確に伝えることの難しさを実感していますが、今日も新たな勉強になりました。オンライン先生が大阪での学校の英語教育にも係わっておられることを知り、親しみをさらに感じました。
- ・英語講師は他人援助者であるべきということですが、児童の類推を促すようなジェスチャーや表現が面白く自然にクラスに入っていました。
- ・一つの母国語に対する英語講師の発音回数が少なく、折角のネイティブの発音が十分に習得できなかった。発音は気にしなくてもいいのでしょうか？
- ・実践的な授業で、体で覚えられました。アクティビティの目的を説明して下さり分かり易かった。
- ・先生の最後の「種まき」という言葉に励ましを受けました。うまく喋れるのか、文法を間違えないか不安だった気持ちを取り払ってくださった気がします。
- ・子どもに英語を教える！ というより一緒に楽しむ事が大切だと思います。英語を教えるというより遊びで英語の抵抗をなくすことが大切だと考えます。
- ・小学校の英語教育ということだけに目が向いていましたが、コミュニケーションのために必要な道具というもう一つの役割を理解いたしました。
- ・生徒と一緒に楽しめるプログラムをつくりたいと思います。
- ・授業の前にカリキュラムを構成して何を教えるのか、より楽しく英語を学ばせる工夫をして、自分が楽しんで課題を設定することが大事だと痛感した。